

大麦管理情報 (第2号)

令和7年11月14日
農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

平均気温は、平年に比べ、10月が18.3℃（平年差+1.3℃）とかなり高く、11月上旬が12.6℃（同-0.6℃）と低かった（図1）。

(2) 降水量

降水量は、平年に比べ、10月が264.0mm（平年比154%）と多く、11月上旬が63.0mm（同100%）と並であった（図2）。

(3) 全天日射量

全天日射量は、平年に比べ、10月が9.5MJ/m²/日（平年比90%）と少なく、11月上旬が8.3MJ/m²/日（同100%）と並であった。

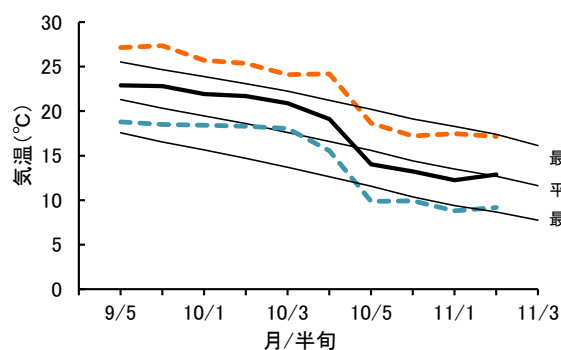


図1 気温の推移（富山地方気象台）

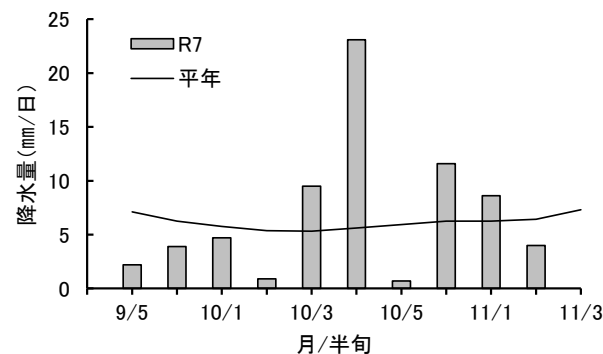


図2 降水量の推移（富山地方気象台）

2 生育概況

平年に比べ、草丈は短く（平年比89%）、茎数は少なく（同比82%）、葉齢（平年差±0.0）と葉色（SPAD、同差-0.3）は並となっている（表1、図3・4）。

表1 大麦の生育状況（11月14日）

年産	播種期 (月/日)	苗立数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)
				(本/株)	(本/m ²)		
8年産	10/6	145	24.1	2.9	440	5.2	39.2
7年産	10/2	169	34.1	3.2	545	6.0	33.0
平年	10/6	174	27.1	3.1	537	5.2	39.5

注1) 調査ほ場数：10、播種様式はすべてドリル播き

注2) 8年産の値は10月下旬播種を除いた平均、平年はH28～R7年産の平均、図3・4も同様

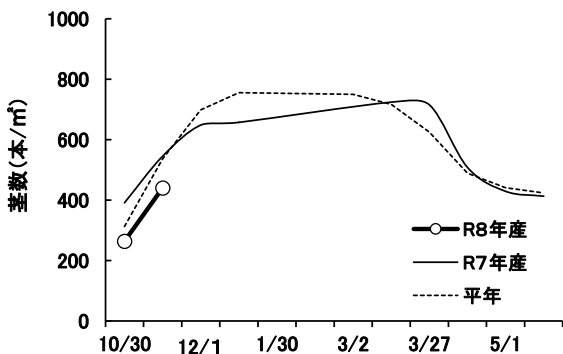


図3 茎数の推移

注) 平年はH28～R7年産の平均

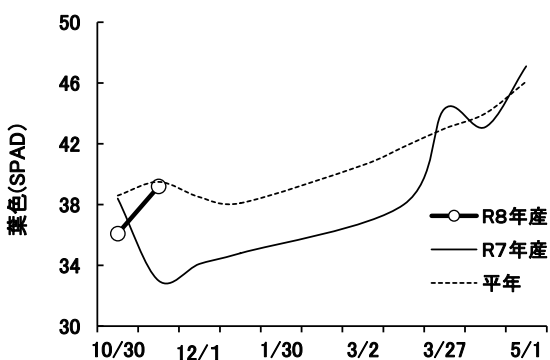


図4 葉色の推移

注) 平年はH28～R7年産の平均

3 当面の技術対策

(1) 排水対策の徹底

- ・現在、土壤水分が高く、茎数が少ないほ場が多くなっている。越冬前に目標茎数（600～800本/㎡）を確保するため、排水溝の手直しを行うとともに深く掘り下げた排水口の連結を徹底する。
- ・特に、播種が10月下旬以降と遅いほ場は、根の伸長を促進するため、排水対策を徹底する。

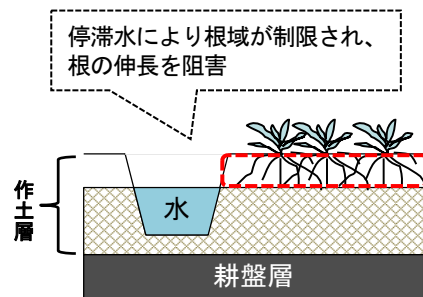
【排水不良のほ場】 溝に水がたまっている・葉の黄化



溝が連結されていない



溝が埋まっている



排水口へ



排水口

排水溝の高い部分や埋まりを取り除き、排水口へ連結する

停滞水がない

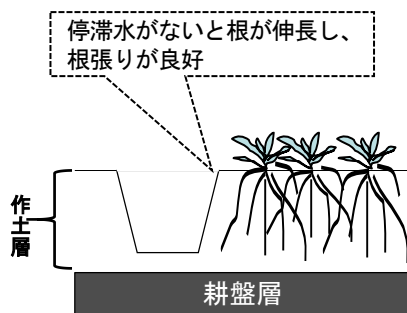


図5 排水対策のイメージ

(2) 年内追肥

【肥効調節型体系】

- ・年内追肥は原則、実施しない。
- ・ただし、播種1か月後頃の茎数がかなり少なく（400本/㎡以下）、葉色が極端に淡い（SPAD 30程度）ほ場では窒素成分で2 kg/10a以内施用する。

【分施肥系】

- ・播種後1か月頃になると大麦の吸収や溶脱により、土壌中の基肥窒素の残存量が少なくなる。そのため、追肥は播種後1か月頃に、窒素成分で4 kg/10a施用し、茎数を確保する。
- ・年内追肥は原則として、播種後1か月頃の1回のみとするが、12月初めの生育が茎数500本/㎡以下で、葉色（SPAD値）が30以下のほ場では、窒素成分で2 kg/10a以内施用する。

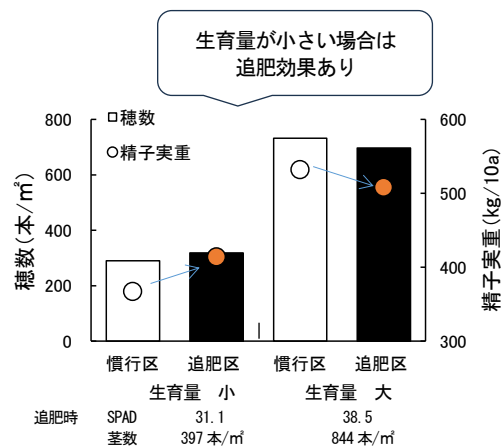


図6 播種40～50日後の追肥と穂数及び収量の関係（R2・3年産）

注）追肥窒素量 生育量小：2 kg/10a、生育量大：1 kg/10a